

# 「5.19 老朽原発うごかすな！ 関電包囲全国集会」 報告とお礼

標記の集会は「原発うごかすな！ 実行委員会@関西・福井」の主催で、169の団体、912人の個人のご賛同を得て（5月18日現在）、5月19日（日）午後1時より大阪の関電本店前で開催されました。750名の結集を得て、老朽原発再稼働阻止、原発全廃の強い決意を関電と政府に突きつけることが出来ました。また、御堂筋デモでは、大阪市民、内外からの観光客、ご通行の皆さんに、声を限りに「老朽原発再稼働阻止！ 原発全廃！」を訴え、大きなご声援をいただきました。

**ご参加、ご賛同、ご支援をいただきました皆様に、  
深く感謝し、お礼申し上げます。**

「3.24 老朽原発うごかすな！ 高浜全国集会」、「5.19 老朽原発うごかすな！ 関電包囲全国集会」の成果を拡大し、さらに大きな反原発運動を波状的に展開して、老朽原発廃炉を実現しましょう！

「原発うごかすな！ 実行委員会@関西・福井」 木原壯林（若狭の原発を考える会）



た「原発うごかすな」実行委員会（福井・高浜）の木原壯林さんは「老朽原発うごかすな」の目的は「老朽原発の再稼働を阻止し、老朽原発の廃炉を実現すること」だ。また、老朽原発の再稼働を阻止し、老朽原発の廃炉を実現することだ。また、老朽原発の再稼働を阻止し、老朽原発の廃炉を実現することだ。

# 韓国原発、あわや大惨事

【ソウル共同】韓国原子力安全委員会は21日までに、南西部の全羅南道・靈光にあるハンビツ原子力発電所1号機で原子炉の熱出力が制限値を超えて急上昇したのに、即時停止を定めた運営指針に反し、運営会社の韓国水力原子力（韓水原）が停止させたのは異常感知から約11時間半後だったと発表した。放射性物質漏えいはなかったが、同委員会は重大事故につながる恐れがあったとみている。

同委員会は安全措置不足と原子力安全法違反を確認したとして1号機の使用停止を命令。委員会職員に捜査権を持たせた特別司法警察官を投入し原因や管理態勢を調査している。

原発事故に詳しい松山大（愛媛県）の張

## 韓国 原発緊急停止させず 炉トラブル、指針に反し

貞旭教授は「深刻な状態に陥りかねず、緊急停止させるべきだった。韓水原のずさんな運営や安全軽視の姿勢に問題がある」と指摘した。

韓国の原発は全て韓水原が運営。商業用の24基中、ハンビツの6基以外の18基は日本海側にあり、事故が起きれば日本に被害が及ぶ可能性もある。

韓国メディアによると、特別司法警察官の投入は1978年に原発の商業運転が始まって以降初めて。



京都新聞 2019年5月22日朝刊

以下は「ハンギョレ新聞」チェ・ハヤン記者の記事（5月22日）を参照した解説です。

## 中性子反応度の手計算ミスで、無免許運転員が制御棒を過剰に抜き取り

21日の韓国原子力安全委員会（原安委）と韓国水力原子力（韓水原）側の説明によると、10日にハンビツ1号機の熱出力が運営技術指針書上の制限値の5%を超え、18%まで急騰した。その原因は、原子炉の制御棒運転者らの計算と判断による制御棒の過剰抜き取りだった。

制御棒は完全挿入時には0ステップ、完全抜き取り時には231ステップと表現される。原安委によると、制限値である5%の熱出力を維持するためには、制御棒は43ステップでなければならなかった。しかし、原子炉操縦士の免許がない韓水原職員が100ステップまで制御棒を抜き取った。これによって1時間に最大3%ずつ高くなるべき出力が、わずか1分で18%まで跳ね上がる事態が起きた。

制御棒の過剰抜き取りは、当時の現場作業員の中性子反応度の手計算ミスと抜き取り可否の判断ミスのためだったという。原発総合設計技術公企業である韓国電力技術で制御棒に関連する業務を行っていたハン・ビョンソプ原子力安全研究所長は「単純な操作ミスや設備の欠陥ではなく、人間の理性的行為の結果、事故が起きたことに注目しなければならない」と指摘した。1979年米国のスリーマイル、1986年ウクライナのチェルノブイリ、2011年日本の福島事故も、ヒューマンエラーが主な原因だったという指摘も多い。

熱出力急増の時点以降、午後10時2分に原子炉が緊急停止されるまで12時間近くかかったのは、韓水原が様々な方法で測定される出力値のうち、低い値を基準としていたためであった。原子炉出力方式には、①炉心外の中性子束を見る方法、②主給水流量を通じて計測する方法、③電気タービン出力を見る方法など、3つがある。原安委と現場に調査団を派遣した原子力安全技術院は、①の方法で熱出力が18%まで高騰したのを確認し、韓水原は②の方法で計測して手動停止せず引き続き稼動した。このため原子力安全技術院調査団が午後4時に現場点検に着手し、6時間後になって手動停止が行われた。ハン・ビョンソプ所長は「意見の違いがあっても、安全を最優先にするならば保守的な計測方法を準用して直ちに手動停止すべきだった」と指摘した。

この「熱出力暴騰事故」は、設備運転者たちの判断ミスや安全不感症が原因であった。人的な緩み、錯覚、予測失敗、未熟練などの「ヒューマンエラー」が重なった場合、設備の異常や地震のような自然災害より深刻な過酷事故が発生する可能性があることを示唆する。

2019年5月23日発行

若狭の原発を考える会（連絡先；木原 090-1965-7102）